



TITLE:

東亞の公私各方面の天文家に告ぐ

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 東亞の公私各方面の天文家に告ぐ. 天界 1939, 19(221): 323-323

ISSUE DATE:

1939-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167870>

RIGHT:

の天文臺は太陽研究の新しい陣容を立てることになつた。ビケリングがハーバード大學天文臺長に任ぜられて、子午環を取り除き、分光プリズムを赤道儀に取り付けた時に、米國の多くの玄人天文學者は“ハーバード天文臺の傳統は滅び、權威は地に墮ちた”と嘆いた。しかるに、まもなく此のハーバード天文臺は分光器と光度計と寫眞術と（之れ等は何れも物理學者の有つものである）を以つて立ち上り、今は天體物理學の一大中心となつて了つた。

希望に満ちた前途を恵まれてゐる世の素人天文家たちよ！ 或る程度までは勿論、玄人（専門家）の優れた技術を學ぶべし、しかし、決して其れに囚はれ、其れに終始してはならない。諸君の使命は些細なる技術を超えて、更に大なるものがあることを忘れてはならぬ。素人諸士よ、希くは偉大なる素人となれ！ 火星を弄ぶのも宜しい。しかし、火星そのものは、地球人のおもちやとなるべく餘りに嚴肅なる存在である。特に、又、今は、我が日本のみならず、全世界が死活の問題に直面してゐる“非常時”である。單に火星や彗星を暇つぶしに弄ぶべき場合ではない。それにも拘らず、吾人が世人の眼を天體へと導く所以は、何ものにも代へ難き重要性を此等の研究に期待するからである。

(1939. 8. 1)

東亞の公私各方面の天文家に告ぐ〔急報 367〕

多分御承知の通り、昨年來國際天文同盟の一部に新しく天文文獻編輯委員會が組織せられ、其の事業の第一着手として、1881年から1898年まで前後18年間に發表された全世界の天文學的研究論文を集め、之等のカタログ及び其の内容の概略を編輯することゝなつた。

下名は其の委員の一名であるが、他の委員は殆んど全部歐洲に居る人々なので、自然、下名は東亞全體にわたる文獻を蒐集しなければならないと思ふ。

就ては上記1881—1898年間に公私各方面天文家から發表せられた論文或は其の寫しを2部づつ本年九月末日までに下名へ届けて頂きたい。

若し之れに洩れる場合には、永く其の文獻は學界に知られざるまゝ葬り去られるかも知れないと思ふ。

尙ほ此の委員會の詳細は天界第222號（來る十月號）を見られよ。

倉敷天文臺長 山本一清
（住所：京都市吉田泉殿町59）